

序 言

東京都江戸東京博物館では、平成5年の開館以来、江戸東京の歴史に関する調査研究を積み重ねてきました。その成果は、展覧会事業をはじめとして、調査報告書・紀要（研究報告書）・史料叢書といった刊行物の出版事業や、「えどはくカルチャー」に代表される教育普及事業などを通じ、ひろく一般に公開しております。

都市歴史研究室は、そうした当館の調査研究活動における推進役として様々な研究プロジェクトを計画・実施しております。なかでも専門領域を異にする都市歴史研究室内のスタッフが、外部研究者とともにひとつのテーマについて学際的な研究を行う江戸東京博物館シンポジウムは、研究活動の重要な柱として定着しております。平成13年度以降のシンポジウムは、東京における地域研究の進展を目標に掲げ、日本橋、四谷、丸の内、銀座、両国、芝、本所・向島といった地域を順次取り上げてきました。そして平成26年度には「浅草」地域における近世以前の歴史をテーマとしたシンポジウムを開催しています。本年度はその続きとして、「浅草地域のあゆみⅡ—近代化と盛り場の変容—」と題し、近代における浅草地域の変化変遷を様々な角度から論じました。本書はその成果を取りまとめたものです。

古代より人々が暮らし、中世以降は浅草寺の門前町として栄えた浅草地域は、江戸時代に入ると、寺社への篤い信仰に加え、様々な娯楽をも兼ね備えた江戸随一の盛り場へと成長しました。しかし時代が明治へと移ると、浅草寺一帯は公園地に指定され「浅草公園」となり、東京府の計画のもと盛り場としての姿は大きく変わっていきます。

本書では、そうした浅草地域における近代化と、盛り場や寺社地の変容について、研究報告と館蔵資料の紹介をもとに読み解いていきます。

最後に、本報告書の編集・刊行にあたりご協力を賜りました多くの方々に深く感謝いたします。また今後とも当館の活動に引き続きご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年3月
東京都江戸東京博物館
都市歴史研究室